

2026 年度 高3英語総合 S 〈後期英文解釈演習 1/10〉

(A)〈大阪大〉

重要語彙・語句・構文

- 1 be worth ～ ～の価値がある
 - 2 put a price tag on ～ ～に値段をつける、～を金銭的に評価する
 - 3 if we really had to もし本当にそうしなければならないとすれば
 - 4 most of us 私たちの大部分
 - 5 the value of a human life 人間の生命の価値
 - 6 in the millions 数百万(ドル)単位で
 - 7 consistent with ～ ～と一致して、～にかなって
 - 8 foundation [faundéiʃən] 基礎、土台
 - 9 democracy [dimákrəsi] 民主主義
 - 10 frequently [frí:kwəntli] 頻繁に、しばしば
 - 11 profess [prəfés] ～を公言する
 - 12 inherent [inhíərənt] 本来備わっている、内在する
 - 13 dignity [dignəti] 尊厳
 - 14 the inherent dignity of human beings 人間に本来備わっている尊厳
 - 15 all humans are created equal すべての人間は平等につくられている
 - 16 at least 少なくとも
 - 17 to the extent of V-ing Vする程度まで、少なくとも Vするという点では
 - 18 deny that ～ ～であることを否定する
 - 19 ethnicity [eθnísəti] 民族性、民族的背景
 - 20 place of residence 居住地
-

構文解説

① What is a human life worth?

[構文]骨格は What / is / a human life / worth?。疑問詞 What は「何」を尋ねるが、ここでは be worth ～「～の価値がある」という表現と結びつき、「人間の命にはどれほどの価値があるのか」という意味になる。worth は「～の価値がある」を表す形容詞で、後ろに価値・金額などを置くことができる。ここではその価値を尋ねる部分が What となって文頭に出ている。

② You may not want to put a price tag on it.

[構文]骨格は You / may not want / to put a price tag on it. may not want to V は「Vしたくないかもしれない」。want to V の to 不定詞が want の

目的語となっている。put a price tag on ～ は直訳すれば「～に値札を付ける」で、ここでは「～に金銭的な価値を付ける」という意味。it は前文の a human life を受けており、「人間の命に値段を付けることには抵抗があるかもしれない」という内容になる。

③ But if we really had to, most of us would agree that the value of a human life would be in the millions.

[構文]主節の骨格は most of us / would agree / that ～。「私たちのほとんどは～ということに同意するだろう」。文頭の if we really had to は条件を表し、had to の後ろでは前文の put a price tag on it に相当する内容が省略されている。つまり「もし本当に人間の命に値段を付けなければならないとすれば」という意味。agree の目的語となる that 節の骨格は the value of a human life / would be / in the millions。in the millions は「数百万の単位で」「数百万に達して」の意味であり、人間の命をあえて金銭的に評価するなら、その価値は数百万という額になるだろう、という論理になっている。

④ Consistent with the foundations of our democracy and our frequently professed belief in the inherent dignity of human beings, we would also agree that all humans are created equal, at least to the extent of denying that differences of sex, ethnicity, nationality, and place of residence change the value of a human life.

[構文]骨格は we / would also agree / that all humans are created equal。文頭の Consistent with A and B は主節全体にかかり、「AとBに一致して／合致して」の意味。A=the foundations of our democracy、B=our frequently professed belief in the inherent dignity of human beingsで、professed は belief を修飾する過去分詞。「私たちがしばしば公言している信念」となる。後半の at least to the extent of denying that ～ は「少なくとも～ということ否定する程度には」の意味で、all humans are created equalという同意の範囲・程度を限定している。denying の目的語が that 節で、その骨格は differences of sex, ethnicity, nationality, and place of residence / change / the value of a human life。「性別・民族・国籍・居住地の違いによって人間の生命の価値が変わる」という考えを否定する程度には、すべての人間は平等であると認める、という論理になる。

下線部和訳 | 採点のポイント

① Consistent with the foundations of our democracy[1点]

consistent with ～ を「～と一致して／～にかなって／～に照らして」と正確に処理し、the foundations of our democracy を「私たちの民主主義の根本理念・基礎」と訳せていること。

② our frequently professed belief[1 点]

profess を「公言する」と捉え、frequently professed belief を「私たちがしばしば公言している信念」と、過去分詞の修飾関係を正確に処理できていること。

③ in the inherent dignity of human beings[1 点]

inherent dignity を「人間に本来備わっている尊厳」と捉え、belief in ～「～に対する信念」と結びつけて訳せていること。

④ we would also agree that all humans are created equal[2 点]

主節 we would also agree that ～ を正確に捉え、that 節の all humans are created equal を「すべての人間は平等に生まれた／つくられている」と処理できていること。

⑤ at least to the extent of denying that ～[2 点]

to the extent of V-ing を「V する程度まで／少なくとも V するという点では」と捉え、denying that ～ と結びつけて、「少なくとも～ということを否定するという点においては」と訳せていること。

⑥ differences of sex, ethnicity, nationality, and place of residence [1 点]

4 つの要素を並列関係として正確に捉え、「性別・民族的背景・国籍・居住地の違い」と訳せていること。

⑦ change the value of a human life[2 点]

differences ... が主語、change が述語動詞であることを見抜き、「そうした違いによって人間の生命の価値が変わる」と正確に処理できていること。

採点目安:10 点満点

9～10 点: Consistent with ～ の冒頭修飾、professed の過去分詞、belief in ～、to the extent of V-ing、deny that ～ の構造をすべて正確に把握し、文全体の論理を自然な日本語で表現できている。

7～8 点: 文全体の骨格は正確だが、consistent with / professed / inherent dignity / to the extent of などの一部に軽微な不正確さがある。

5～6 点: 大意は取れているが、Consistent with ～ または to the extent of denying that ～ の構造に重要な誤りがある。

4 点以下: 主節 we would also agree that ～ と前後の修飾関係を正確に捉えられず、「人間の平等」と「性別・民族・国籍・居住地によって生命の価値は変わらない」という中心的な内容が十分に表現できていない。

最重要採点ポイントは、①文頭の Consistent with ～ が主節全体にかかること、② to the extent of V-ing を正確に処理すること、③ denying の目的語となる that 節内で differences of A, B, C, and D が主語、change が述語動詞であることを見抜けているかどうかです。

(A)全訳

人間の生命には、いったいどれほどの価値があるのだろうか。生命に値段をつけるなどしたくないと思うかもしれない。しかし、もし本当にそうしなければならないとすれば、私たちのほとんどは、人間の生命の価値は数百万ドルにもなるという点で意見が一致するだろう。また、私たちの民主主義の根本理念や、私たちがしばしば公言している、人間には生まれながらに尊厳が備わっているという信念に照らして考えれば、すべての人間は平等に生まれたという点についても、私たちは意見が一致するだろう。少なくとも、性別、民族的背景、国籍、居住地の違いによって人間の生命の価値が変わるという考えを否定するという点においては、そう言えるのである。

(B)〈京都大学予想問題〉

重要語彙・語句・構文

- 1 be compelled to V Vすることを余儀なくされる
 - 2 express A in numbers Aを数字で表す、数値化する
 - 3 by its very nature その本質そのものからして、本質的に
 - 4 resist calculation 計算・数値化になじまない
 - 5 practical reason for V-ing Vする実際上の理由
 - 6 estimate [éstəməit] ～を見積もる、算定する
 - 7 economic loss 経済的損失
 - 8 human worth 人間の価値、人間としての価値
 - 9 assign A to B AをBに割り当てる、付与する
 - 10 can hardly be any more than ～ せいぜい～にすぎない
 - 11 practical device 実際上の手段、便宜的な手段
 - 12 not less A than B Bに劣らずAである、Bと同じくらいAである
 - 13 contribution [kàntreɒbjú:ʃən] 貢献、寄与
 - 14 in economic terms 経済的観点から、金銭的尺度で
 - 15 monetary [mánətəri] 金銭上の、貨幣による
 - 16 no more A than B Bでないのと同様にAでない
 - 17 happen to V たまたまVする
 - 18 not any less because ～ ～だからといって少しも価値が低いわけではない
 - 19 lie beyond ～ ～を越えたところにある
 - 20 Nothing is less consistent with A than B BほどAと相いれないものはない
-

構文解説

① The price assigned to a human life can hardly be any more than a practical device for making difficult decisions, since a person's value is not less dependent on relationships, memories, and possibilities that cannot be measured than on contributions that can be expressed in economic terms.

[構文]骨格は The price / can hardly be / any more than a practical device ～。assigned to a human life は The price を後ろから修飾する過去分詞句で、「人間の生命に付けられた価格」。hardly any more than ～ は「せいぜい～にすぎない」と捉える。後半の since 以下では a person's value / is / not less dependent on A than on B という比較構造になっており、A = relationships, memories, and possibilities [that cannot be measured]、B = contributions [that can be expressed in economic terms]。not less A than B は「B に劣らず A」「B と同じくらい A」であるから、人間の価値は、経済的に表せる貢献だけでなく、数値化できない人間関係・記憶・可能性にも同じように依存している、という論理になる。

② A monetary figure can no more represent the worth of a human being than can the income that person happens to earn, and that worth is not any less because much of what gives an individual life its meaning lies beyond anything that numbers can adequately express.

[構文]前半の骨格は A monetary figure / can no more represent A / than can B。no more A than B は「B でないのと同様に A でもない」という構文で、than 以下は can the income ... と倒置している。通常の語順に戻せば the income that person happens to earn can [represent the worth of a human being] となる。つまり「その人がたまたま得ている収入が人間の価値を表せないのと同様、金銭的な数値も人間の価値を表すことはできない」。

後半は that worth / is not any less / because ～。「～だからといって、その価値が少しでも低くなるわけではない」。さらに much of what gives an individual life its meaning では、what 節が of の目的語で、give O_1 O_2 = 「 O_1 に O_2 を与える」。したがって what gives an individual life its meaning は「個人の人生に意味を与えるもの」。それが lies beyond anything [that numbers can adequately express]「数字で十分に表現できるものの範囲を越えている」となる。

③ Nothing is less consistent with the principle of human equality than the belief that differences in wealth, nationality, or social

position can make one person's life more deserving of respect than another's.

[構文]骨格は Nothing / is less consistent with A / than B. Nothing is less A than B は、直訳すれば「B より A でないものは何もない」であり、実質的には**「B ほど A と相いれないものはない」**という最上級の意味になる。A = the principle of human equality, B = the belief that ~。that 節は belief の内容を示す同格節である。

その内部は differences in A, B, or C / can make / one person's life / more deserving of respect than another's という make O C の構造。another's は another person's life の省略であり、「ある人の生命を別の人の生命よりも尊重に値するものにする」という意味になる。

(B)下線部和訳 | 採点のポイント

(1)【10 点】

① The price assigned to a human life[1 点]

assigned to ~ が The price を修飾する過去分詞句であることを捉え、「人間の生命に付けられた価格」と訳せていること。

② can hardly be any more than a practical device for making difficult decisions[2 点]

hardly ... any more than ~ を正確に処理し、「困難な決定を下すための実際上の手段にすぎない」などと訳せていること。人間の生命の価格そのものに本質的価値があるという意味にしない。

③ since a person's value is not less dependent on A than on B[3 点]

not less A than B を「B に劣らず A である」と捉え、「人間の価値は B だけでなく A にも同じくらい依存している」と訳せていること。この比較関係が最大のポイント。

④ relationships, memories, and possibilities that cannot be measured[2 点]

that cannot be measured が直前の relationships, memories, and possibilities を説明していることを捉え、「測ることのできない人間関係、記憶、可能性」と処理できていること。

⑤ contributions that can be expressed in economic terms[2 点]

in economic terms を「経済的尺度で・金銭的観点から」と処理し、「経済的尺度で表すことのできる貢献」と訳せていること。

採点目安:10 点満点

9～10 点: hardly any more than ～ / not less A than B の比較構造を正確に把握し、「数値化できない価値」と「経済的に表せる貢献」の対比まで自然に表現できている。

7～8 点: 文全体の骨格は正確だが、practical device / dependent on / in economic terms などに軽微な不正確さがある。

5～6 点: 大意は取れているが、not less A than B の比較関係、または hardly any more than ～ の処理に重要な誤りがある。

4 点以下: 比較構造を捉えられず、「人間の価値は経済的に測れるものだけに依存するのではない」という中心的な論理が崩れている。

最重要採点ポイントは、① hardly any more than ～ を「～にすぎない」と処理すること、② not less dependent on A than on B の A・B の比較関係を正確に見抜くことです。

(2)【10 点】

① A monetary figure can no more represent the worth of a human being than can ～[3 点]

no more A than B を「B でないのと同様に A でもない」と捉えること。than 以下の can the income ～ が倒置であることも見抜き、「金銭的な数値も～と同様、人間の価値を表すことはできない」と訳せていること。

② the income that person happens to earn[1 点]

happen to V「たまたま V する」を踏まえ、「その人がたまたま得ている収入」と処理できていること。

③ that worth is not any less because ～[2 点]

「～だからといって、その価値が少しでも低くなるわけではない」と、not ... because ～ の論理を自然に表現できていること。

④ much of what gives an individual life its meaning[2 点]

what が先行詞を含む関係代名詞であり、give O₁ O₂ の構造を捉えて、「個人の人生に意味を与えるものの多く」と訳せていること。

⑤ lies beyond anything that numbers can adequately express[2 点]

lie beyond ～「～を越えたところにある」を捉え、「数字で十分に表現できるものの範囲を越えている」などと訳せていること。

採点目安:10 点満点

9～10 点: no more ... than の対応、than 節の倒置、not any less because ～、what 節の構造をすべて正確に処理できている。

7～8 点: 比較構造と全体の論理は正確だが、happen to / adequately / lie beyond などに軽微な不正確さがある。

5～6 点：大意は取れているが、no more ... than または not any less because ～ の処理に重要な誤りがある。

4 点以下：no more ... than の否定比較を逆に解釈するなど、「金銭によって人間の価値を表すことはできない」という中心的な意味が崩れている。

最重要採点ポイントは、① no more A than B を正確に処理すること、② than can the income ～ の倒置を見抜くこと、③ what gives an individual life its meaning の内部構造を正確に捉えることです。

(3)【10 点】

① Nothing is less consistent with A than B[3 点]

「B ほど A と相いれないものはない」という最上級の意味を正確に表現できていること。逐語訳によって比較関係を逆転させないことが重要。

② the principle of human equality[1 点]

「人間の平等という原則」と自然に訳せていること。

③ the belief that differences in wealth, nationality, or social position ～[2 点]

that が belief の内容を説明する同格の that であることを捉え、「富・国籍・社会的地位の違いによって～という考え」と訳せていること。

④ can make one person's life more deserving of respect[2 点]

make O C を捉え、「ある人の生命を、より尊重に値するものにする」と訳せていること。

⑤ than another's[2 点]

another's が another person's life の省略であることを理解し、「別の人の生命よりも」と比較対象を補って訳せていること。

採点目安:10 点満点

9～10 点：Nothing is less ... than ～ の最上級の意味、同格の that、make O C、another's の省略をすべて正確に処理できている。

7～8 点：全体の比較関係は正確だが、consistent with / deserving of respect / another's などに軽微な不正確さがある。

5～6 点：大意は取れているが、Nothing is less ... than ～ または make O C の処理に重要な誤りがある。

4 点以下：比較関係を逆転させ、「人間の平等という原則」と「生命の価値に差を設ける考え」との対立関係を表現できていない。

最重要採点ポイントは、① Nothing is less consistent with A than B を「B ほど A と相いれないものはない」と捉えること、② belief that ～ の同格関係、③ another's=another person's life の省略を正確に補うことです。

(B)全訳

人間の価値を測るということ

現代社会は、その本質からして数値化になじまないように思われるものを、数字で表すことを余儀なくされる場合がある。政府や裁判所には、人の死によって生じた経済的損失を算定しなければならない実際上の理由があるかもしれないが、そのような算定を行う必要があるからといって、人間そのものの価値まで測ることができるというわけではない。⁽¹⁾人間の生命に付けられる価格は、困難な決定を下すための便宜的な手段にすぎない。というのも、人間の価値は、経済的尺度で表すことのできる貢献に劣らず、数値では測ることのできない人間関係や記憶、そして可能性にも依存しているからである。⁽²⁾金銭的な数値が人間の価値を表すことができないのは、その人がたまたま得ている収入がその価値を表すことができないのと同じであり、また、一人の人間の人生に意味を与えるものの多くが、数字で十分に表現できるものの範囲を越えているからといって、その人間の価値が少しでも低くなるわけではない。⁽³⁾富や国籍、社会的地位の違いによって、ある人の生命が別の人の生命よりも尊重に値するものになりうるという考えほど、人間は平等であるという原則と相いれないものはない。